

文責：手術室 濱崎弘子

西宮市立中央病院  
Nishinomiya Municipal Central Hospital



## 「ラテックスフリー環境への挑戦」

ラテックスアレルギーとは、天然ゴムに含まれる蛋白抗原と血液中の抗原特異IgE抗体が相互作用することによって誘発される即時型アレルギー。増加の背景は80年代、B型肝炎・HIVなどの感染防御対策のため使い捨て天然ゴム手袋の使用が増し粗悪品も登場したからである。ラテックスアレルギーは、天然ゴム製品の使用により、時にはアナフィラキシーショックを発症し呼吸困難・血圧低下などの急激なショック症状に至ることもある。また、加硫促進剤入りの手袋の使用で医療従事者の慢性的な手荒れを引き起こすことも問題視されている。当院でも頻回に手術を受けていた患者で、天然ゴムの駆血帯を巻いた瞬間、全身に赤い膨隆疹が出現した症例があった。2004年、小麦由来石鹸のアレルギーによるアナフィラキシーショックがニュースにでた。スズメバチに複数回刺された場合にもアナフィラキシーショックをおこす危険があり、急性な血圧低下や意識障害など重篤な状態に陥った時、アドレナリン注射薬を打つことで血圧の上昇を促す救命処置がファーストチョイスとなる。

院内で用いられるラテックス製品には、膀胱留置カテーテルや手袋などがある。ラテックスフリー製品との混在による非効率性、さらにはゴム手袋に含まれるパウダーによる間接的アレルギー発症や腸の癒着、目の肉芽腫など様々な弊害があることが知られている。このようにラテックス製品の使用が安心・安全な医療の提供を損なっている現実を鑑み、以前から「効率の悪さ」を感じており、どうすればラテックスフリー環境を構築できるかを専門的に考え挑戦してきた。

## 「兵庫ラテックスアレルギーセミナー」にて演台に立つ

2017年9月30日、アンセルの「院内におけるラテックスアレルギーセミナー」に招待して頂き、ラテックスフリー環境への挑戦内容を講演した。

推進したプロセスは、①ラテックス製品の徹底調査、②ラテックスフリー製品への変更、③サンプルとアンケート、④最新情報の報告、⑤ラテックスアレルギーによる危険性のポスター、⑥院内研修会、という流れである。まずは手術室、救急外来から導入がスタートし、検査・カテーテル部門に導入、そして病棟へ

徐々に院内の理解を得ることに成功した。コスト問題、使用感など立ち回りはハードルはあったが、何度もサンプルやアンケートを繰り返し、根気よく理解者を増やすことができた。最後に、この度ラテックスフリー化にご尽力いただきました関係者各位には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

### 【セミナー内容】

- 講演①：事例紹介  
「ラテックスフリー環境への挑戦」  
濱崎 弘子 先生  
西宮市立中央病院 手術室師長 手術看護認定看護師  
周術期管理チーム看護師
- 講演②  
周術期アナフィラキシーショックへの対応  
～臨床経験と文献報告から学ぶ～  
中本 志郎 先生  
兵庫医科大学 麻酔科・疼痛制御科 助教
- 講演③：事例紹介  
ラテックスフリー対応事例紹介  
管田 忍 先生  
日本赤十字社 広島赤十字・原爆病院 手術看護認定看護師
- 講演④  
ゴム手袋に潜むアレルギーの危険性  
～ラテックスと加硫促進剤アレルギーとその対策について～  
峠岡 理沙 先生  
京都府立医科大学附属病院 皮膚科
- 総合司会 藤原 和世 様  
地方独立行政法人 神戸市民病院機構  
神戸市立西神戸医療センター 看護部主査 手術看護認定看護師

いつも通りも大切にしつつ…

このままでいいと思ったら  
先へは進めない

いつだって変わり続けてきた  
僕らもこの国も

変わり続けるからその先へ  
行けるんだ

三井住友銀行2013年CM

